

2018 年度 日本小児耳鼻咽喉科学会 評議員会議事録

日時:2018 年 7 月 11 日 (水) 17 時 00 分~18 時 10 分

場所:ワークピア横浜2階 「くじゃく」

出席者:内藤健晴(理事長)、足立雄一、今井丈英、香取幸夫、黒野祐一、坂田英明、鈴鹿有子、竹内万彦、武田憲昭、土井勝美、仲野敦子、二藤隆春、兵頭政光、前田貢作、益田慎、三輪高喜、吉川 衛(理事)、後藤友佳子、阪上雅史(監事)、荒川浩一、飯田政弘、石川浩太郎、伊藤真人、井脇貴子、梅崎俊郎、大津雅秀、奥中美恵子、片岡祐子、小林一女、近藤康人、阪本浩一、柴田修明、杉内智子、鈴木雅明、高瀬真人、田中学、田中康広、千田いづみ、堤 剛、長井今日子、中川尚志、任 智美、馬場信太郎、林 達哉、日高浩史、深美 悟、増田佐和子、望月高行、望月博之、守本倫子、安井拓也、吉田尚弘、米倉竹夫(評議員)、市村恵一、川城信子(顧問)、加藤政彦(年次幹事)、飯野ゆき子(前理事長)、有本友季子、香山智佳子、小森 学(幹事)、早坂駿吾、中西秀彦(事務局)、(50 音順, 敬称略)

内藤健晴理事長挨拶

本評議員会は出席者と委任状で定足数を満たしていることが報告された。議事録署名人に近藤評議員と増田評議員が指名された。初めに西日本豪雨に対するお見舞いを述べられた。本大会開催にあたっての挨拶として評議員会出席者および望月博之会長への謝辞が述べられた。

望月博之会長挨拶

第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会を開催するにあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

I. 報告事項

1. 2017 年度臨時理事会のご報告(内藤理事長)

臨時理事会では、事務局の移転、補正予算、ホームページの変更に関する審議が行われたことが報告された。

2. 庶務報告(仲野理事)

2-1. 2017 年度事業報告

1. 第 12 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2017 年 6 月 2 日～6 月 3 日の 2 日間、宇都宮市において獨協医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 春名眞一会長のもとに開催した。
2. 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2018 年に東海大学小児科 望月博之会長のもとに開催する準備をした。
3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第 38 巻 2 号、3 号および第 39 巻 1 号を刊行した。
4. 2017 年度新理事会および評議員会を 2017 年 6 月 1 日に、臨時理事会を 2018 年 1 月 26 日に開催した。
5. 日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会会議に出席した。
6. 2017 年 10 月 1 日に事務局を移転した。
7. 2017 年 6 月 5 日に「小児耳鼻咽喉科【第2版】」を刊行した。
8. 会員名簿情報の収集を行い、e-naf による会員情報管理を開始した。
9. 小児期外科系関連学会協議会に出席し、日本小児連絡協議会の活動に委員として協力した。
10. 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの改訂に委員として協力した
11. 日本小児耳鼻咽喉科学会会則を改訂した。
12. 「日本小児耳鼻咽喉科学会の利益相反に関する指針」および「日本小児耳鼻咽喉科学会の利益相反に関する指針施行細則」を作成した。
13. 筆頭発表者等の入会年度につき審議し、入会年度を発表年度に統一した。
14. 日本小児耳鼻咽喉科学会 会員数 2018 年 4 月 30 日現在

名誉会員	1 名
正会員	1195 名
購読会員	14 名
寄贈会員	3 名
合計	1213 名

2-2. 筆頭発表者入会年度変更のメール審議について

未入会の筆頭発表者が入会する際、従前の発表前年度からの入会でなく、発表の当該年度からの入会に変更することにつき、メール審議が行われ、承認されたことが報告された。

2-3. e-naf の進行状況と対応について

オンライン会員管理システム(e-naf)の利用開始に際し、郵送物を送っても、14名の会員との連絡が取れていないことが報告された。

2-4. 過去の議事録管理の進捗状況

事務局で集まっている議事録の状況について報告された。

3. 学術誌編集(二藤理事)

学会誌 38 巻 2 号、3 号、39 巻 1 号を刊行したこと、故・鈴木淳一名誉会員の追悼文を掲載したこと、新規入会者へは総会号(2号)を引き続き配布すること、生協への学会誌バックナンバーの販売依頼をお断りしたこと、広告掲載企業の状況が、それぞれ報告された。

4. ホームページ広報(益田理事)

学会ホームページをリニューアルしたこと、ホームページの管理会社を砂庭興業から横山商事に移転したこと、サーバーとドメインの移譲の関係でリニューアル後のホームページの公開が2017年12月1日になったことが、それぞれ報告された。

5. 保険医療(三輪理事)

核酸増幅法による先天性サイトメガロウイルス感染診断技術の保険収載についての要望書を日耳鼻と共同で厚労省に提出したこと、アドレナリン液(外用液 0.1%)の安定供給の要望を日耳鼻から厚労省に提出したことが、それぞれ報告された。

6. 会則改定(兵頭理事)

利益相反に関する指針がメール審議にて承認されたこと、学会ホームページおよび学会誌 39 巻 2 号に利益相反に関する指針を掲載したこと、第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会のホームページに演題発表に際しての利益相反の開示についての項目を掲載したこと、利益相反委員会が兵頭委員長、仲野委員、二藤委員の 3 名で設けられたことが報告された。

臨時会員の権限の明確化・監事の年齢制限の 70 歳への引き上げ・評議員の選出条件の変更(選出年の4月1日において満 65 歳を超えていないこと)・メール審議の規定の明確化・理事の定数を 18 名以上 20 名以下とすること・推薦理事の規定(理事長、2 名以内の理事を推薦により加えること)の設置に関する会則の改定案がメール審議にて承認されたことが報告された。

7. 学術(国際)(代. 飯野前理事長)

ESPO が 2018 年はストックホルムで開催され日本からも多くの出席者があった。2020 年にマルセイユ、2022 年にリバプールでそれぞれ開催されること、第1回 Pediatric ENT World Congress がブエノスアイレスで開催されることが報告された。

8. 男女共同参画(鈴鹿理事)

日本耳鼻咽喉科学会のホームページに、第13回日本小児耳鼻咽喉科学会のホームページ内の託児のご案内のリンクが掲載されたこと、来年の第14回日本小児耳鼻咽喉科学会で男女共同参画をテーマとした企画を取り上げることが計画されていることが、それぞれ報告された。

9. 小児科領域企画推進事業(足立理事)

第13回日本小児耳鼻咽喉科学会のシンポジウムなどで、耳鼻科と小児科の合同プログラムが組まれたこと、引き続き耳鼻科と小児科の合同プログラムなどを企画することが報告された。

10. その他

10-1. メール審議報告(内藤理事長)

臨時理事会以降のメール審議の内容が報告された。

10-2. 日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会会議報告と UMIN のサービス終了について(内藤理事長)

第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会期間中の5月31日にパシフィコ横浜で、日本耳鼻咽喉科学会・関連する学会会議が開催され、今年度末の UMIN のサービス終了について取り上げられたことが報告された。

10-3. 第14回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(中川次期会長)

第14回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況の報告がなされた。2019年5月23日～24日に福岡国際会議場で開催されること、副会長が九州大学小児科の大賀正一教授であること、テーマが「めざせ質の向上！多職種連携でつながるチーム医療」であること、多職種を入れた企画を考えていること、海外からのゲストとして、高麗大学のチェ先生、マレーシアのウー先生を招聘予定であることが、それぞれ報告された。

10-4. 第 15 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(兵頭次々期会長)

第 15 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況の報告がなされた。2020 年 7 月 2 日～3 日に三翠園(高知市)で開催されること、副会長が高知大学小児科の藤枝幹也教授であることが、それぞれ報告された。

II. 審議事項

1. 2017 年度決算報告(土井理事)

2017 年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算(2017 年 5 月 1 日～2018 年 4 月 30 日)および資産が報告され、承認された。

2. 会計監査報告(阪上監事)

日本小児耳鼻咽喉科学会 2017 年度決算書類を監査した結果、適正であることが報告され、承認された。

3. 2018 年度事業計画(案)(仲野理事)

1. 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2018 年 7 月 12 日～7 月 13 日の 2 日間、横浜市において東海大学小児科 望月博之会長のもとに開催する。
 2. 第 14 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2019 年に九州大学耳鼻咽喉・頭頸部外科 中川尚志会長のもと開催に向け準備する。
 3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第 39 巻 2 号、3 号および第 40 巻 1 号を刊行する。
 4. 理事会および評議員会を 2018 年 7 月 11 日に開催する。
 5. 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。
 6. 小児期外科系関連学会協議会に出席し、日本小児連絡協議会の活動に委員として協力する。
 7. 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂、小児滲出性中耳炎診療ガイドラインの改訂に委員として協力する。
 8. 会員名簿情報の収集、把握に努める。
 9. 旅費規程の改定について審議する。
 10. 小児科領域企画推進事業を進める。
- 以上、審議され、承認された。

4. 2018 年度予算(案)(土井理事)

2018 年度日本小児耳鼻咽喉科学会予算(2018 年 5 月 1 日～2019 年 4 月 30 日)について審議され、承認された。

なお、事務局移転に関する質疑があり、その経緯について内藤理事長より説明があった。

5. 評議員の推薦(仲野理事)

評議員として以下の3名が推薦され、承認された。

吉原重美先生(獨協医科大学小児科)、保富宗城先生(和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、井上真規先生(神奈川県立こども医療センター耳鼻いんこう科)。

6. 年次幹事の推薦(仲野理事)

九州大学大学院医学研究院耳鼻咽喉・頭頸部外科の澤津橋基広先生が推薦され、承認された。

7. 住所不明者の件について

継続審議事項とすることとなった。

8. 旅費規程について(土井理事)

旅費の支給対象、宿泊費の上限設定など、支出を可能な限り抑えるための旅費規定について審議され、承認された。

9. 会則改定について(兵頭理事)

評議員の任期について、理事の任期と同一とし、理事の改選と合わせ3年毎に更新する旨の会則改定案について審議され、承認された。

10. 会計年度について(土井理事)(二藤理事)

土井理事より、現在、会計年度が5月1日～翌年4月 30 日までとなっているが、4月1日～翌年3月30日までに変更した方が良いというご意見があることが報告された。その理由として、①総会の開催時期の関係、②ScholarOne Manuscripts の契約内容との関係、③学会誌発刊時期との関係、④学会会則との関係、以上4点が挙げられた。二藤理事より、③について補足説明があった。

この議題については、理事会での最終結論が出ていないため、継続審議とすることとなった。

11. APOG の件について(代. 飯野前理事長)

APOGには第5回から日本も参加しているが、2023年の開催地が未定となっており、日本での開催を要望されていることが報告された。この議題については、理事会での最終結論が出ていないため、継続審議とすることとなった。

12. 第16回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長推薦(内藤理事長)

第16回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長に近畿大学耳鼻咽喉科の土井勝美教授が推薦され承認された。

以上

理事長:内藤健晴

庶務担当:仲野敦子

庶務アドバイザー:守本倫子

幹事:有本友季子

小森 学

(文責)香山智佳子